



第 4 次甲府市観光振興基本計画

資料編

目次

I. 甲府市観光振興基本計画策定検討委員会設置要綱	1
II. 第4次甲府市観光振興基本計画策定検討委員会委員名簿	3
III. 甲府市観光振興基本計画庁内検討会議設置要綱	4
IV. 第4次甲府市観光振興基本計画庁内検討会議構成員	6
V. 計画策定の経緯	7
VI. 各種計画の整理	9
1. 国の計画の概要	9
2. 山梨県の観光振興に関わる計画	10
3. 周辺自治体との連携	14
4. 第七次甲府市総合計画について	17
VII. 各種調査結果概要	19
1. 市民アンケートの結果概要	19
2. 観光客アンケートの結果概要	23
3. インバウンドアンケートの結果概要	29
4. 事業者アンケートの結果概要	31

Ⅰ. 甲府市観光振興基本計画策定検討委員会設置要綱

平成20年7月24日

産 第 2 号

(設置)

第1 本市の歴史、文化、自然、人等の地域資源の活用によって、交流人口の増加による地域活性化を図ることを目的とした、甲府市観光振興基本計画（以下「基本計画」という。）を策定するにあたり、専門的かつ客観的な立場から幅広く意見交換を行うため、甲府市観光振興基本計画策定検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2 委員会は、基本計画に関する事項について、意見交換を行う。

(組織等)

第3 委員会は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する20名以内の委員をもって組織する。

- (1) 学識経験者
- (2) 関係団体からの代表者
- (3) 一般公募による者
- (4) その他市長が必要と認めた者

2 委員の任期は、委嘱した日から令和8年3月31日までとする。

(委員長等)

第4 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長は、必要があると認めたときは、委員以外の者の出席を求めることができる。

(庶務)

第6 委員会の庶務は、産業部商工観光室観光課において処理する。

(その他)

第7 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成20年7月24日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年5月20日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年4月15日から施行する。

附 則

この要綱は、令和7年5月19日から施行する。

Ⅱ. 第4次甲府市観光振興基本計画策定検討委員会委員名簿

(敬称略、順不同)

No.	氏名	所属	役職	備考
1	吉田 均	山梨県立大学	名誉教授	委員長
2	雨宮 正英	一般社団法人甲府市観光協会	会長	副委員長
3	笹本 健次	湯村温泉旅館協同組合	理事長	
4	橋本 博之	一般社団法人山梨県タクシー協会 甲府支部	支部長	委員
5	近藤 誠	甲府商工会議所 水晶宝飾部会部	部会長	
6	小沢 宏至	甲府市議会経済建設委員会委	委員長	
7	芦澤 卓夫	昇仙峡観光協会	会長	
8	川崎 靖	甲府商店街連盟	会長	
9	並木 隆行	一般社団法人 日本旅行業協会 関東支部 山梨県支部	支部長	
10	中澤 大	甲府ホテル旅館協同組合理	理事長	
11	萩原 爲仁	山梨みらい農業協同組合代	代表理事組合長	
12	上原 勇七	一般財団法人 山梨県地場産業 センター	理事長	
13	二宮 智浩	山梨県観光文化スポーツ部 観光政策グループ	観光政策推進監	
14	雨宮 潔	甲府まちなかエリアプラットフォーム	会長	
15	竹村 潤一	甲府観光開発 株式会社	取締役	
16	籠谷 菜緒	株式会社 山梨中央銀行地方創生推進部	主任	
17	波木井 淳一	公募		
18	依田 順子	公募		

令和7年8月28日時点

Ⅲ. 甲府市観光振興基本計画庁内検討会議設置要綱

平成20年7月24日

産第1号

(設置)

第1 本市における、交流人口の増加による地域活性化を図ることを目的として策定する、甲府市観光振興基本計画（以下「基本計画」という。）の原案を作成するため、甲府市観光振興基本計画庁内検討会議（以下「検討会議」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2 検討会議は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 基本計画の原案の作成に関すること。
- (2) その他、基本計画の原案の作成に必要な事項に関すること。

(構成)

第3 検討会議は別表に掲げる者（以下「構成員」という。）をもって構成する。

(会議)

第4 検討会議に議長を置き、産業部商工観光室観光課長が議長となる。

2 議長に事故あるとき又は欠けたときは、産業部商工観光室観光課観光係長が議長の職務を代理する。

3 議長は、検討会議を招集し会務を総括する。

4 議長は、審議する事項について必要と認めるときは、構成員以外の者の出席を求めることができる。

(事務局)

第5 検討会議の庶務は、産業部商工観光室観光課において処理する。

(その他)

第6 この要綱に定めるもののほか、検討会議の運営について必要な事項は、議長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成20年7月24日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年5月20日から施行する。

附 則

この要綱は、令和2年4月15日から施行する。

附 則

この要綱は、令和7年5月19日から施行する。

Ⅳ. 第4次甲府市観光振興基本計画庁内検討会議構成員

(敬称略、順不同)

No.	部局	室	課	備考
1	産業部	商工観光室	観光課長	議長
2	市長直轄組織	市長室	国際交流課	構成員
3			情報発信課	
4	企画部	企画総室	政策課	
5			地域デザイン課	
6		財政経営室	連携共創課	
7		リニア交通室	リニアプロジェクト 推進課	
8			交通政策課	
9	産業部	商工観光室	商工課	
10			中心市街地振興課	
11			観光課	
12		農林振興室	農政課	
13			林政課	
14	まちづくり部	まち開発室	都市計画課	
15			公園緑地課	
16			道路河川課	
17	教育部	生涯学習室	生涯学習課	
18			歴史文化財課	
19			スポーツ課	

V. 計画策定の経緯

1. 第4次甲府市観光振興基本計画策定検討委員会（以下、策定検討委員会）

第1回 策定検討委員会・委嘱状交付式			
開催日時	令和7年8月28日（木） 10:00～11:00	開催場所	甲府市役所 4階 本部長会議室
内 容	1. 委嘱状交付式 2. 第3次甲府市観光振興基本計画の実施状況について 3. 今後のスケジュールについて 4. 第4次甲府市観光振興基本計画の調査内容について 5. その他		
第2回 策定検討委員会			
開催日時	令和7年11月10日（月） 15:00～17:00	開催場所	甲府市役所 7階 7-2 会議室
内 容	1. 目指すべき観光地像について 2. 各種調査について 3. 骨子案について 4. その他		
第3回 策定検討委員会			
開催日時	令和7年12月24日（木） 14:00～16:00	開催場所	甲府市役所 4階 本部長会議室
内 容	1. 事業者アンケート及びインバウンドアンケートの結果について 2. 第3章「観光地像と基本方針」について 3. 第4章「施策と主な事業」について 4. 数値目標について 5. その他		
第4回 策定検討委員会			
開催日時	令和8年2月2日（月） 10:00～12:00	開催場所	甲府市役所 7階 7-2 会議室
内 容	1. 第4次甲府市観光振興基本計画（案）について 2. その他		
第5回 策定検討委員会			
開催日時	令和8年3月5日（木）～ 令和8年3月6日（金）	開催場所	書面開催
内 容	1. パブリックコメントの実施結果 2. 第4次甲府市観光振興基本計画(最終案)について		

2. 第4次甲府市観光振興基本計画庁内検討会議（以下、庁内検討会議）

第 1 回 庁内検討会議			
開催日時	令和 7 年 11 月 14 日（金）～ 令和 7 年 11 月 21 日（金）	開催方法	書面開催
内 容	「第 3 次甲府市観光振興基本計画」の施策事業評価及び新規事業の確認		
第 2 回 庁内検討会議			
開催日時	令和 8 年 1 月 5 日（月）～ 令和 8 年 1 月 13 日（火）	開催方法	書面開催
内 容	第 4 次甲府市観光振興基本計画における事業（案）の確認及び 修正等について		

3. パブリックコメント

パブリックコメント			
開催日時	令和8年2月3日（火）～ 令和8年3月2日（月）	開催場所	甲府市ホームページ 本庁舎市政情報コーナー 各窓口センター 等
内 容	「第4次甲府市観光振興基本計画（案）」に対する意見募集 意見提出の対象者：甲府市内に住所を有する者 甲府市内に事務所又は事業所を有する者 甲府市内に存する事務所又は事業所に勤務する者 甲府市内に存する学校に在学する者 甲府市に対して納税義務を有する者		

4. 市長報告会

市長報告会			
開催日時	令和8年3月9日（月）	開催場所	市長応接室
内 容	第4次甲府市観光振興基本計画の報告		

1. 国の計画の概要

なお、国では令和８年度を初年度とする第５次観光立国推進基本計画の策定が進められています。本市においても、今後、同計画の内容を踏まえ、数値目標等を設定していくこととしています。

国土交通省

- 観光はコロナ禍を経ても**成長戦略の柱、地域活性化の切り札。国際相互理解・国際平和**にも重要な役割。
 - コロナによる変化やコロナ前からの課題を踏まえ、**我が国の観光を持続可能な形で復活させる。**
 - **大阪・関西万博も開催される2025年に向け、「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」**をキーワードに、**「持続可能な観光地域づくり」「インバウンド回復」「国内交流拡大」**に戦略的に取り組み、全国津々浦々に観光の恩恵を行きわたらせる。

計画期間：
令和5～7年度
(2023～2025年度)

- 活気に満ちた地域社会の実現に向け、地域の社会・経済に好循環を生む「持続可能な観光地域づくり」が全国各地で進められ、観光の質の向上、観光産業の収益力・生産性の向上、交流人口・関係人口の拡大がコロナ前より進んだ形で観光が復活している
- 万博の開催地である我が国が世界的潮流を捉えた観光地として脚光を浴び、「持続可能な観光」の先進地としても注目されている

2. 山梨県の観光振興に関わる計画

① やまなし観光推進計画 【計画期間：令和5年度～令和8年度】

（1）計画概要

「やまなし観光推進計画」は、山梨県における観光振興施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成23年（2011年）12月に施行した「おもてなしのやまなし観光振興条例」に基づき策定された計画です。計画期間は令和5年度から令和8年度までの4年間とされています。

本計画では、新型コロナウイルス感染症の影響による観光需要の減少や、観光産業における人手不足、デジタル技術の活用の遅れなどの課題を踏まえ、山梨県の観光資源を最大限に活用しながら、持続可能な観光地づくりを進めることを目的としています。

（2）山梨県の観光を取り巻く現状と課題

山梨県の観光入込客数は、富士山の世界文化遺産登録などを背景に増加し、平成30年（2018年）には約3,769万人と過去最高を記録しました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により観光客数は大きく減少しました。近年は回復傾向にあり、令和4年（2022年）には約2,738万人とコロナ禍前の約8割まで回復しています。

また、山梨県を訪れる旅行者の多くは東京都や神奈川県など近隣地域からの来訪者であり、日帰り旅行の割合が高く、宿泊旅行であっても1泊が多い傾向があります。このため、滞在時間の延長や観光消費額の拡大が課題とされています。

さらに、観光産業においては人手不足や生産性の低さなどの課題も指摘されており、人材確保や観光DXの推進などが求められています。

（3）観光ビジョン

本計画では、「山梨のポテンシャルを100%生かし、観光の質の向上と観光産業の経営基盤の強化を図ることで、観光産業の稼ぐ力を高め、持続可能な観光地・山梨を創出する」ことを山梨の観光ビジョンとしています。

その実現に向け、次の4つの観光振興戦略に基づいて施策を推進することとしています。

《4つの戦略》

● 受入環境の整備

観光産業の高付加価値化や二次交通の充実、美しい景観形成、地域一体となったおもてなしの推進などにより、旅行者の満足度向上と滞在価値の創出を図る。

- やまなしツーリズムの推進

自然、食、文化などの地域資源を保全と利用のバランスを図りながら活用した観光の展開や、ガストロノミーツーリズムなどの新たな観光スタイルを推進する。

- 観光地経営の高度化

旅行者ニーズの調査・分析や地域ごとのエリアマネジメントの促進、観光 DX の推進により、収益性の高い観光ビジネスモデルの構築を進める。

- 人材の確保・定着・育成

労働環境の改善や人材育成、事業承継の推進などを通じ、観光産業の持続的な発展を図る。

(4) 数値目標

やまなし観光推進計画では、観光の質の向上（高付加価値化）と観光産業の経営基盤強化を図るため、観光消費額を最終目標（KGI）とし、その達成に向けた主要指標（KPI）および重要指標を設定しています。観光客の消費拡大や満足度向上、観光産業の賃金向上などを総合的に評価し、持続可能な観光地づくりの実現を目指すものとされています。

■最終目標（KGI）

観光による地域経済への波及効果を高めるため、観光消費額の拡大を最終目標として設定しています。

項目	基準値（令和元年）・目標値（令和 8 年）
観光消費額	4,330 億円 → 5,000 億円

■主要指標（KPI）

KGI の達成に向けた取り組みの成果を評価するため、次の指標を設定しています。

項目	基準値（令和元年）・目標値（令和 8 年）
宿泊客一人当たり平均宿泊料	11,465 円 → 15,500 円
食を目的とした観光客の飲食単価	6,230 円 → 9,480 円
観光客一人当たりの平均土産代・入場料・体験料等	3,296 円 → 3,700 円

■重要指標

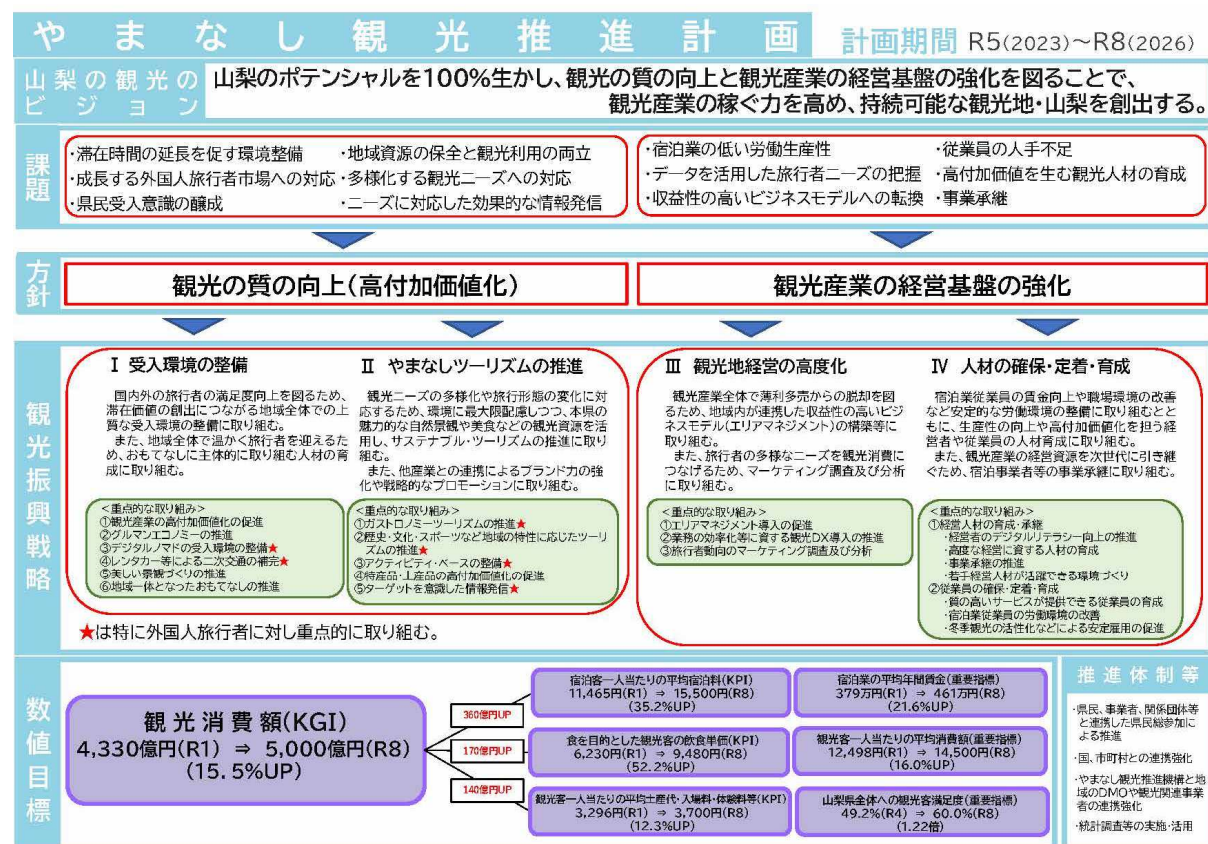
KGIの達成および観光ビジョンの実現に向け、次の指標を設定しています。

項目	基準値（令和元年）・目標値（令和8年）
宿泊業の平均年間賃金	379万円 → 461万円
観光客一人当たりの平均消費額	12,498円 → 14,500円
山梨県全体への観光客満足度	49.2%（令和4年） → 60.0%

（5）本計画における甲府市の位置づけ

山梨県の観光は、富士山をはじめとする自然資源に加え、歴史・文化資源や食など多様な地域資源に支えられています。特に峡中圏域には、御嶽昇仙峡、日本遺産、武田信玄ゆかりの史跡など歴史的・文化的価値の高い資源が集積しており、県内観光において重要なエリアとなっています。

甲府市は、県都として交通や観光の拠点となる都市であり、武田氏館跡や甲府城跡などの歴史資源、昇仙峡などの自然景観、文化施設など多様な観光資源を有しています。このため、県内観光の玄関口として周辺地域と連携した観光周遊の拠点としての役割が期待されています。



出典・参考：「やまなし観光推進計画」をもとに作成

② やまなし未来観光地づくり推進計画（第2期山梨県観光基本計画）

【計画期間：令和6年度～令和10年度】

（1）計画概要

やまなし未来観光地づくり推進計画は、地域未来投資促進法に基づき、山梨県の観光資源や地域特性を活用した地域経済牽引事業を促進することにより、観光産業の成長と地域経済の活性化を図ることを目的として策定された計画です。観光産業の「稼ぐ力」と「働く魅力」を高めながら、観光客ニーズに対応した新たなサービスの創出や、観光施設・設備の新設やリニューアルを促進し、観光を核とした地域経済の好循環と質の高い雇用の創出を目指しています。

（2）甲府市に関する主な位置付け

本計画では、促進区域を山梨県全域としており、甲府市も地域経済牽引事業を推進する対象地域として位置づけられています。甲府市には、御嶽昇仙峡や武田信玄ゆかりの史跡などの歴史・文化資源が集積しており、県内観光において重要な役割を担う地域の一つとなっています。また、山梨県立産業展示交流館アイメッセ山梨や大学・研究機関などの集積により、観光・産業・交流の拠点としての役割も担っています。さらに、新山梨環状道路の整備やリニア中央新幹線山梨県駅の整備など、広域交通ネットワークの形成が進められており、今後は県内外からの観光交流を支える玄関口としての機能強化が期待されています。

（第2期）山梨県（観光分野）における基本計画の概要

計画のポイント

観光産業の「稼ぐ力」と「働く魅力」を高めながら、観光客のニーズに対応した新しいサービスの創出、施設・設備の新設やリニューアルを促進することにより、事業所の売上額と従業員給与など付加価値額の増加だけでなく、地域全体への観光客の増加などによる幅広い産業への経済波及効果により、継続的な地域内経済の好循環を目指し、質の高い雇用の創出を促進する。

促進区域

山梨県全域（甲府市、富士吉田市、都留市、山梨市、大月市、韮崎市、南アルプス市、北杜市、甲斐市、笛吹市、上野原市、甲州市、中央市、市川三郷町、早川町、身延町、南部町、富士川町、昭和町、道志村、西桂町、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町、小宮村、丹波山村）

経済的効果の目標

促進区域で2,676百万円の付加価値を創出することを目指す。

地域経済牽引事業の承認要件

【要件1：地域の特性を活用すること（①～②のいずれか）】

- ① 世界遺産富士山、ユネスコエコパーク、世界農業遺産や日本遺産、温泉、スポーツ、史跡などの観光資源を活用した観光分野
- ② ぶどう・もも・すももなどのフルーツ、甲州ワイン、印傳・ジュエリー・織物などの伝統的地場産品などの特産物を活用した観光分野

【要件2：高い付加価値を創出すること】

- ・付加価値増加：4,117万円超

【要件3：いずれかの経済的効果が見込めること】

- 売り上げ：5%増加
- 雇用者数：1%増加
- 雇用者給与等支給額：3%増加

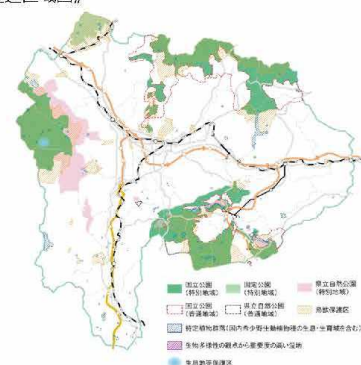
制度・事業環境の整備

- ・不動産取得税・固定資産税の減免措置の創設、産業集積促進助成金制度、観光産業振興融資制度、企業立地促進融資制度
- ・ICTの利活用の推進、情報発信の充実
- ・事業者からの事業環境整備の提案への対応
- ・スタートアップへの支援（事業者の成長促進等）、産業人材の確保・育成に向けた支援、賃上げ促進（賃上げ促進支援）、DX支援、総合的支援体制の整備

地域経済牽引支援機関

（公社）やまなし観光推進機構、観光協会、山梨県産業技術センター、（公財）やまなし産業支援機構、山梨県職業能力開発協会、県立宝玉石美術専門学校、県立産業技術短期大学校、商工会・商工会連合会・商工会議所、金融機関

《促進区域図》



計画期間

計画同意の日から2028年度末日まで

出典・参考：「やまなし未来観光地づくり推進計画」をもとに作成

3. 周辺自治体との連携

①県央ネットやまなしについて

山梨県内の9市3町（甲府市、韮崎市、南アルプス市、甲斐市、笛吹市、北杜市、山梨市、甲州市、中央市、昭和町、市川三郷町、富士川町）で構成する県央ネットやまなし（やまなし県央連携中枢都市圏）では、各地域の個性を互いに尊重しつつ、連携・協力を深めながら、圏域全体の経済成長及び圏域住民の豊かで快適な暮らしの実現に向けた取組を進めています。

②やまなし県央連携中枢都市圏ビジョン【計画期間：令和5年度～令和9年度】

（1）計画概要

やまなし県央連携中枢都市圏ビジョンは、人口減少や少子高齢化の進行に対応し、地域経済の活性化や住民サービスの維持・向上を図るため、甲府市を中心とした近隣自治体が連携し、圏域全体の発展を目指す計画です。

本圏域は、甲府市を中心に9市3町で構成され、人口約61.7万人を有する山梨県最大の都市圏となっています。計画期間は令和5年度から令和9年度までの5年間とされています。

（2）甲府市の位置付け

本ビジョンにおける観光施策は、甲府市単独ではなく圏域自治体と連携して推進することの特徴としています。

甲府市は圏域の中心都市として観光・交流の拠点機能を担い、御嶽昇仙峡や武田信玄ゆかりの歴史・文化資源、食文化などの地域資源を活かしながら、周辺自治体と連携した広域観光を推進することで、圏域全体の観光交流の拡大と地域経済の活性化を図る役割を担っています。

（３）観光分野における連携の方向性

本ビジョンでは、圏域全体の経済成長をけん引する取組の一つとして、広域観光の推進を掲げています。

主な方向性は次のとおりです。

- 圏域が有する自然、歴史、食などの観光資源を活かした広域観光の推進
- 高速交通網（中央自動車道、中部横断自動車道、リニア中央新幹線等）を活用した観光交流の拡大
- 圏域全体での効率的・効果的な観光プロモーションの実施
- 圏域自治体が連携した観光ツアー造成や周遊観光の推進
- イベントやコンベンション等の誘致による滞在型観光の促進

これにより、圏域内の観光資源をつなぐ広域観光を推進し、観光消費の拡大と地域経済の活性化を図ることとしています。

（４）観光に関する主な目標指標

圏域全体の観光振興に関する主な目標指標として、次の数値が設定されています。これらの指標の達成に向け、広域観光の推進や観光プロモーションの強化などの取組が進められています。

項目	数値目標		
観光入込客数	931 万人	→	1,300 万人
観光消費額（1 人当たり平均）	13,408 円	→	15,000 円

やまなし県央連携中枢都市圏ビジョン【概要版】

連携中枢都市圏構想の目的

我が国では、人口減少・少子高齢化の進行により、行政サービスが提供され、高齢化が進む。税収の減少や社会保障費の増大等による経営資源の制約により、単独の自治体ではこれらで済む水準で行政サービスを提供していくことが難しくなっています。

そこで、国では、地方自治法に基づく連携協約制度を創設し、地方交付税をはじめとする包括的な財政措置を講じた上で、連携中枢都市圏構想を推進しています。この構想は、三大都市圏以外の指定都市や中核市を中心として、近隣自治体と連携し、「圏域全体の経済成長のけん引」「圏域の都市機能の集積・強化」「圏域全体の生活関連機能サービス向上」の3つの役割を果たすことにより、人口減少・少子高齢化においても一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持するための拠点を全国に形成することを目的としています。

取組期間

本ビジョンの期間は、2023（令和5）年度から2027（令和9）年度までの5年とし、毎年度必要見直しを行います。

圏域の目指す姿

【将来像】



連携中枢都市圏を構成する市町



本ビジョン策定の趣旨

甲府盆地一帯のこの圏域では、先ごろ中部圏南信濃都市圏の圏域・山梨県が全圏域に、また、数年前には二ア中央圏新幹線の開業が開始する予定となっており、既存の中央本線や身延線、中央自動車道と合わせて高速交通網の整備として、ヒトやモノの往来がますます活発になり、この圏域の産業経済の更なる発展の可能性を秘めています。

また、厳しい時代にあっても、地域の活力を維持し、持続可能な地域社会を構築していくためには、住民生活や産業経済活動において関係性の深い近隣の自治体とそれぞれの持つ強みを活かし、協力を補完しながら連携して共通課題の解決に取り組むことが必要であり、また、そうすることで住民生活の増進や住民サービスの向上につながるものと考えます。

こうしたことから、甲府市、北杜市、南アルプス市、甲斐市、笛吹市、北杜市、山梨市、甲州市、中央市、昭和町の9市1町は、国の「連携中枢都市圏構想推進要綱」に基づく「やまなし県央連携中枢都市圏」を形成し、本ビジョンは、圏域の目指す将来像とその実現に向けた具体的な取組を定めるものです。



将来の目標人口

圏域の各市町の人口ビジョン・総合戦略の取組を踏まえ、これらの取組の有効性を連携により更に高めるとともに、圏域外、特に東京都との人口流動改善に資する取組を展開していきます。

圏域の将来像の実現に向けた取組を効果的に推進することにより、各市町の人口ビジョンに掲げた将来推計人口の実現を促すものとし、概ね10年後の2040（令和22）年における目標人口を約540,000人とし、

図表 圏域各市町の人口推移と将来推計人口



圏域の将来像の実現に向けた方向性や取組

1 圏域全体の経済成長のけん引

(1) 広域観光の推進
圏域が有する自然、歴史、食など豊富な観光資源と高速交通網を活かした新たな広域観光による賑わいの創出

【取組】
① 広域観光プロモーション
② 連携自治体ツーリズム
③ 連携自治体ツーリズム（圏域周遊観光イベントの開催）
④ イベント等の誘致

(2) 地域農業の稼ぐ力の強化
都市と農村の共生し、「稼ぐ農業」を育てる持続可能で魅力ある農業圏の実現

【取組】
① 農産物の付加価値向上に広域プロモーションの推進
② 圏域ネットワークによる「担い手支援」
③ 「みどりの食料システム戦略」に基づく取組
④ 新規就農者の確保、移住・二拠点居住の推進
⑤ 局域被害対策

(3) 地域産業の振興
圏域経済を支える中小企業の実業と圏域の特性を活かした新産業や新事業の誘致

【取組】
① 企業誘致の促進
② 4K企業の支援や雇用創出
③ 多様な連携による圏域企業への就職促進

3 圏域全体の生活関連機能サービスの向上

(1) 生活機能の強化
医療・介護、防災、環境、教育分野等において広域で支え合う安全・安心な圏域の実現

【取組】
① 安定的な医療提供と在宅医療・介護連携体制の構築
② 甲府市消費生活センターの広域的展開
③ 災害対策のための相互協力の推進
④ CO2排出削減によるゼロカーボン推進
⑤ 空き家対策の推進
⑥ 教育環境の充実
⑦ 社会福祉体制の連携の推進
⑧ 子ども・子育てへの支援

(2) 結びつきやネットワークの強化
多様な多様なニーズに対応し、暮らしの質や経験を高め、住みたい・住み続けたい魅力ある圏域の実現

【取組】
① 移住定住・Uターン・U-Iターン
② ふるさと応援の推進
③ ふるさと納税を活用した魅力向上

(3) 圏域マネジメント能力の強化
限られた行政資源を有効に活用し、協力の要請に応え続ける持続可能な圏域の実現

【取組】
① 圏域マネジメント人材の育成（人材育成・交流促進）
② ICTを活用した行政情報システムの広域共同化
③ その他、圏域マネジメント能力の強化に係る施策

2 高次の都市機能の集積・強化

(1) 都市計画区域マスタープランにおける広域交流拠点の形成と拠点間連携の推進
リニア効果を活かした良好な都市空間の形成と国内外からの交流人口の増加による圏域のエリア価値の向上

【取組】
① リニア駅を核とした圏域づくりの推進
② 都市間連携の推進
③ 公共交通ネットワーク構築の検討
④ リニア駅とのアクセス向上に向けた取組
⑤ リニアによる新たな通勤圏との連携推進

(2) 公共施設、公共インフラの広域的な活用
圏域に点在する公共施設や公共インフラの広域的な活用を促進

【取組】
① 公共施設の共同利用の検討
② 公共インフラの共同利用の検討

(3) 消防の広域的な連携
広域的な連携による消防力の充実・強化

【取組】
① 消防指令機能の共同化
② 消防の広域連携

指標名	現状値	目標値（令和9年）
圏域の総人口に対する東京圏圏域（圏域4圏）の割合	3.5%（令和4年）	3.5%
圏域の総人口に対する圏域圏域（圏域4圏）の割合	19.7%（令和4年）	15%
人口の社会経済（圏域人口）	1,398人（H29～R3の推計）	1,500人（R5～R9の推計）
防災圏域の形成率	—	令和5年度に計画区域に設定
ふるさと納税件数（圏域人口）	94万件（令和3年）	180万件

4. 第七次甲府市総合計画について

①計画の概要・都市像

第七次甲府市総合計画では、都市像を「幸せ実感 希望ある未来を創り続けるまち 甲府」と定め、「ひと」「まち」「魅力」が好循環するまちを甲府に関わる全ての人とともに創り上げ、誰もが未来に夢や希望を持ち、幸せを感じられる甲府市の実現を目指します。

②計画期間

令和 8 年度～令和 17 年度までの 10 年間

③基本目標

本計画では、都市像の実現に向け、次の 3 つの基本目標を掲げています。

● 未来に輝く『ひと』を育む

夢や希望を持ってそれぞれの舞台で自分らしく活躍・成長し、ふるさと甲府を胸に、輝いていくことができる『ひと』を育みます。

● 安全・安心で快適な『まち』を創る

誰一人取り残すことなく安全・安心で幸せに暮らし続けることができる、強靱で持続可能な『まち』、都市機能と自然が調和した『まち』を創ります。

● 都市機能と自然が調和する甲府の『魅力』を磨く

甲府らしい『魅力』を高めることで市内外から多様な『ひと』や産業を惹きつけ、地域への愛着を深め、『ひと』が輝き、『まち』に活力があふれる未来につなげていきます。

④観光に関する主な施策

本計画では、歴史・文化・自然などの地域資源を生かし、交流人口の拡大や地域経済の活性化につなげる観光振興が重要な取組として位置付けられています。

甲府市には、御嶽昇仙峡や甲斐善光寺、武田信玄ゆかりの史跡などの歴史・文化資源、日本遺産に関連する文化財、温泉など多様な観光資源を有しており、これらの地域資源を活用した魅力づくりが進められています。さらに、甲府ジュエリーやワイン、甲州印傳などの地場産業や、ぶどう・スイートコーンなどの農産物、甲府鳥もつ煮などの食文化も地域の魅力として位置付けられています。

また、中央線や中央自動車道などの交通ネットワークに加え、今後はリニア中央新幹線の整備により広域交通の利便性向上が見込まれており、これらを活かした広域観光や交流の促進が期待されています。こうした取組により、甲府市の魅力向上と交流人口の拡大、地域経済の活性化を図ることとしています。

VII. 各種調査結果概要

1. 市民アンケートの結果概要

(1). 調査目的

甲府市の観光における市民意見を把握し、今後の観光施策検討の基礎資料とすることを目的として実施した。

(2). 調査概要

- ・実施期間：2025年9月19日～10月7日
- ・対象：甲府市在住者 277 人（無作為抽出＋甲府市公式 LINE 登録者）
- ・手法：二次元コード付きハガキ送付及び LINE での告知
- ・回答者属性：女性 58.8%、男性 40.0%
- ・回答者の年齢：50 代 24.5%、60 代 20.9%、40 代 19.9%、その他の世代 34.7%

(3). 調査結果概要

① 甲府市を観光地としてどの程度紹介したいと思うか

➡ 5段階評価で「紹介したい」、「やや紹介したい」に当たる「5」と「4」を回答した人の割合は 47.3%となっており、約半数の市民が甲府市を観光地として紹介したい意向を持っていることがうかがえる。

属性別の傾向としては、40 代以下の若年層や甲府市での居住年数が短い層において、紹介意向が低い傾向がみられる。

② 市民のお気に入りの観光資源

ぶどう	81.9%	信玄公祭り	66.4%
桃	71.8%	山梨県立美術館	61.0%
御嶽昇仙峡	70.4%	武田神社	59.9%
温泉（信玄の湯 湯村温泉 等）	67.1%		

➡ 表記載のお気に入りの観光資源のほか、今後、観光資源として PR や活用を望むものとして、御嶽昇仙峡、温泉（信玄の湯湯村温泉 等）、甲府城、遊亀公園附属動物園、信玄公祭りが上位となっている。

③ 市内の主要観光地やスポーツ施設の満足度について

・武田神社

➡ 観光の満足度、アクセス性（公共交通）は高いが、周辺施設の満足度が低い。

・御嶽昇仙峡

➡ 観光の満足度は非常に高い。一方、中心部から離れたエリアであることもあり、目的地までのアクセス性（公共交通）の満足度が低い。また、周辺施設の中でも宿泊施設の満足度が著しく低い。

・信玄の湯 湯村温泉

➡ 温泉街であることから、他のスポットと比べて宿泊施設の満足度が高い。一方、宿泊施設と飲食店以外の周辺施設の満足度は低い。また、来訪経験は他のスポットと比較して低めとなっている。

・小江戸甲府花小路・こうふ亀屋座や舞鶴城公園など甲府駅周辺

➡ 全体的に満足度が高く、特にアクセス性（公共交通）や周辺施設（飲食）に関する満足度が非常に高い。一方、駐車場の混雑に関する満足度は比較的低い。

・小瀬スポーツ公園

➡ 観光の満足度、アクセス性（公共交通）、駐車場混雑に関する満足度は比較的高い。一方、周辺施設の満足度は低く、特に宿泊施設や飲食店以外の施設に対する満足度が低い。

④ どのような観光客にもっと来てほしいと思うか

➡ 「リピーター」が 63.9%と最も多く、次いで「消費意欲の高い人」が 58.1%、「新規来訪者」が 43.7%となっており、一見客よりも「継続的な来訪」や「経済効果」を重視する傾向がみられる。

⑤ 今後、市民はどのように甲府市の観光に関わることができそうか

➡ 「紹介や SNS 等での情報発信」が 44.8%、「地域美化活動」が 33.6%、「イベント参加」が 23.1%となっており、多くの市民が何らかの形で観光に関わることができると認識していることが分かる。

⑥ 持続可能な観光地としての評価

➡ 「満足・やや満足」が17.3%であるのに対し、「不満・やや不満」が47.6%となっており、持続可能な観光地としての評価は高いとは言えない状況にある。

⑦ 観光振興による、まちの活気を実感しているか

➡ 「実感する・少し実感する」が21%にとどまり、約6割が「実感しない」「あまり実感しない」と回答している。

⑧ 観光客増によるプラス変化について、実感及び期待していることはあるか

➡ 実感：「生活環境向上」が25.6%、「地域経済活性化」が23.8%となっている。
期待：「地域経済活性化」が61.7%、「生活環境向上」が52.7%、「交通利便性」が47.7%と上位となっている。

⑨ 観光客増によるマイナス変化について実感及び懸念していることはあるか

➡ 実感：「交通渋滞・混雑」が35.7%、「マナー違反」が34.7%、「治安悪化」が23.1%となっている。
懸念：「マナー違反」が54.2%、「治安悪化」が50.9%、「交通混雑」が47.3%となっていることから、「観光公害」的懸念が強い。

⑩ 甲府市観光振興基本計画の認知度について

➡ 第3次甲府市観光振興基本計画の内容を「知っている」と回答した人は約5%にとどまり、約70%が観光振興基本計画を「全く知らなかった」と回答している。

⑪ 今後の観光振興に盛り込んでほしい取組について

➡ 上位は「交通アクセス改善」49.8%、「観光施設・整備の充実」35.7%、「観光資源の磨き上げ」31.0%、「自然資源の保全」29.6%となっており、ハード面の整備に対する要望が多い。

⑫自由記述の傾向

自由記述では、次のような意見が多くみられた。

・交通・移動に関する意見

➡ 公共交通の利便性、駐車場不足、レンタサイクル導入 など

・中心市街地の魅力低下に関する意見

➡ 空き店舗、カフェや土産店の不足、夜のにぎわいの欠如 など

・情報発信に関する意見

➡ SNS、多言語対応、PR力の弱さへの不満 など

・ターゲット層に関する意見

➡ 若者・子ども・家族向け施設の不足 など

・自然・景観に関する意見

➡ 富士山眺望や街並み美化への要望 など

・地域愛着に関する意見

➡ 地元の子どもや住民が誇りを持てるまちづくりを求める声 など

2. 観光客アンケートの結果概要

(1). 調査目的

甲府市における来訪者の現状や課題、ならびに非来訪者の意見を把握し、今後、選ばれる観光地となるための観光施策を検討する基礎資料とすることを目的として実施した。

(2). 調査概要

- ・実 施 期 間：2025 年 9 月 19 日～10 月 1 日
- ・調 査 方 法：インターネットリサーチ会社（楽天インサイト）のモニターを対象とした Web アンケート
- ・回答者の構成比率：首都圏 82.5%、中部圏 17.5%
- ・来訪経験別構成：来訪者 500 名／非来訪者 500 名 （過去 5 年以内）

(3). 調査結果概要

■来訪者（甲府市を訪れたことがある人）の回答結果

① 来訪・滞在の傾向

訪 問 回 数：「1 回のみ」が約 7 割を占めている。

訪問エリア：市の中心部（武田神社・中心市街地）が 71.8%と最も高く、次いで北部（昇仙峡など）が 39.6%となっている。

同 行 者：「家族（子どもと）」が 29.0%、「夫婦」が 25.4%となっている。

滞 在 時 間：「6 時間以内」が 50.6%と最も多く、宿泊は 26.4%にとどまっております。日帰り・短時間滞在が主流となっている。

② 旅行時の情報入手方法について

➡ 「家族・友人の紹介」が 25.2%、「ネットで偶然見かけた」が 22.4%となっており、口コミや偶発的な発見が中心となっている。

特に若年層は SNS・YouTube、40 代以上は Web サイトを中心に情報を得ている。

③ 旅行時の消費金額

- ➡ 平均消費額が1.8万円／人となっている。宿泊率が低いことから、滞在型消費への転換が求められる。

④ 来訪目的・来訪理由

ぶどう	50.6%	桃	34.8%
ほうとう	39.0%	温泉	34.2%
信玄餅	37.6%	武田神社	32.4%

- ➡ 食、果物、温泉を目的とした来訪が中心であり、文化、体験、まち歩きといった目的の割合は低い。

⑤ 甲府市のイメージ

- ➡ 「地元ならではのおいしい食べ物」が42.4%、「特産品・土産」33.0%、「温泉」32.0%となっている。一方、「アクセスが良い」は20.8%と低く、鉄道や交通の利便性に対する不便な印象が残っている。

⑥ 甲府市の観光資源・食資源に関する期待度・満足度

- ➡ 満足度の上位は、ぶどう、桃、ほうとう、温泉、昇仙峡となっている。
一方で、これらの満足度はいずれも期待度を下回っており、既に評価の高いコンテンツについても、さらに磨き上げていく必要がある。

■非来訪者（甲府市を訪れたことがない人）の回答結果

① 情報入手経路

- ➡ 主な情報入手経路は「ネットで偶然見かけた」が31.4%、「家族・友人の紹介」が30.6%となっており、初めから旅先として「甲府市」を目的地に定めて情報収集している層は少ないと考えられる。

② 非来訪理由

- ➡ 「何があるかわからない」41.8%、「魅力のある観光地がない」20.0%、「交通が不便」13.8%となっており、情報発信の不足や認知度の低さが、来訪の大きな障壁となっている。

③ 来訪するための条件（期待していること）

- ➡ 「魅力ある自然景観」40.4%、「食（郷土料理・特産品）」39.0%、「観光施設・娯楽施設」35.4%となっており、自然、食、体験型観光への期待が高いことがうかがえる。

(4). 市民アンケート・観光客アンケート結果から見える課題

情報発信の強化	甲府市の観光に関する情報は、観光客、市民の双方に十分届いていない現状がみられる。観光客アンケートでは、非来訪者の約4割が「何があるかわからない」と回答しており、<u>観光地としての認知度の低さが来訪の大きな障壁となっている。</u> 一方、市民アンケートでも観光振興基本計画を「全く知らなかった」と回答した人が約7割を占めており、<u>観光に関する取組が市民生活に十分浸透していない状況がうかがえる。</u> また、情報入手経路が「ネットで偶然見かけた」「家族・友人の紹介」など偶発的な接触に偏っていることも課題である。 <u>このため、今後は、SNSや動画等を活用したターゲット別発信を進めるとともに、地域全体で統一感のある情報発信戦略を構築していく必要がある。</u>
地域公共交通の充実	<u>「交通が不便」「移動手段が少ない」「駐車場が不足している」といった意見が多くみられた。</u>観光客は、昇仙峡、信玄の湯 湯村温泉、中心市街地などの主要観光地間の移動に不便を感じており、観光地間の回遊性の低下を招いている。また、市民からも「公共交通が使いにくい」「高齢者が観光地に行きづらい」といった声が挙がっている。 これらの課題は、観光客の滞在促進と市民の移動利便性の双方に影響するものであり、<u>観光交通と生活交通を一体的に捉えた地域公共交通ネットワークの再構築が不可欠である。</u> 具体的には、周遊バスやEVモビリティ、シェアサイクルなど多様な移動手段の導入を検討する必要がある。

滞在・体験の深化	観光客の多くが日帰り・短時間滞在にとどまり、宿泊率は約26%と低い水準にある。また、市民アンケートでは、観光振興による「まちの活気」や「生活への効果」を実感している人が2割程度にとどまっており、観光が地域経済や暮らしの質の向上に十分につながっていない状況がみられる。その要因の一つとして、滞在や体験につながる魅力が十分でないことが考えられる。 観光客は「食」や「果物」を目的に訪れている一方で、<u>体験型、文化型、夜間型の観光メニューは多いとは言えず、再訪や長時間滞在につながりにくい。</u> このため、今後はワイナリーや農業体験、温泉文化の体験、まち歩き、ナイトツアーなど、<u>時間消費型の観光コンテンツを育成し、地域内での回遊と消費の循環を促進していく必要がある。</u>
市民参画の促進	観光の成果が市民の生活実感に十分結び付いておらず、「観光でまちが元気になっている」と感じている市民は2割程度にとどまっている。加えて、観光振興基本計画の認知度も低く、<u>市民が観光まちづくりに主体的に関わる仕組みが十分に整っていない。</u> 一方で、市民の約4割は「SNSでの情報発信」や「地域美化活動」など、観光への関わりに意欲を示しており、潜在的な参画意欲は高い。 今後は、市民、事業者が観光づくりの担い手となるような協働体制を構築し、観光を通じた郷土愛や誇りの醸成を図っていくことが重要である。

ブランド力向上	甲府市のイメージは、「ぶどう」「ほうとう」「信玄餅」などの食に偏る傾向がみられ、<u>都市全体としてのブランドが十分に確立されていない。</u>加えて、非来訪者の多くが「何があるかわからない」と回答していることから、地域の魅力が十分に伝わっていないことが分かる。 また、市民アンケートでは、甲府市を観光地として「紹介したい」「やや紹介したい」と回答した人の割合は 47.3%であり、一定の評価はみられるものの、市民全体で積極的に魅力を発信する段階にはなお課題がある。 今後は、観光資源や文化的価値を個別に PR するだけでなく、「山の都」「湯と食のまち」など、<u>地域の多面的な魅力を統合的に発信するブランド戦略の再構築が必要である。</u>こうしたブランド形成は、観光振興にとどまらず、移住促進や地場産業振興にも波及効果が期待される。
受け入れ環境整備 (マナー等)	市民アンケートでは、「観光客のマナー違反」「交通混雑」「治安悪化」への懸念が多くみられ、<u>観光客の増加が生活環境の悪化につながるのではないかという不安が表れている。</u>持続可能な観光地経営への転換を進めていくうえでは、こうした市民の懸念に丁寧に対応していく必要がある。 一方で、観光客側からも、「混雑」「案内の分かりにくさ」「休憩・トイレ環境の不足」など、受入環境の不十分さを指摘する声がみられる。 このため、今後は、案内サイン、バリアフリー対応、多言語対応、観光マナーの啓発など、<u>ハード・ソフトの両面から受入体制の充実を図っていくことが必要である。</u>

3. インバウンドアンケートの結果概要

(1). 実施目的

本調査は、甲府市におけるインバウンド誘客の現状と課題を把握し、今後の観光施策検討の基礎資料とすることを目的として実施した。

(2). 調査概要

- ・実施期間：2025 年 11 月
- ・対象：ユニタス日本語学校の在校生 173 名
- ・手法：Web 回答でのアンケートの実施
- ・回答者属性：留学ビザ 1～2 年のユニタス日本語学校在校生

(3). 調査結果概要

① 日本在住の外国人から見た甲府市の観光満足度は高い

- ➡ 甲府市を観光した経験がある回答者のうち、93%が「満足」以上と回答しており、観光地としての満足度は非常に高い。

また、自然、歴史、食、人のあたたかさといった分野で高い評価を得ている。

② 甲府市を観光したことがない理由は「情報」と「交通」

- ➡ 甲府市を観光していない理由としては、「何があるかわからない」、「公共交通が不便」といった回答が多く、観光情報の不足や移動の分かりにくさが、観光行動につながりにくい要因となっていることが明らかとなった。

③ 甲府市の観光に関する課題について

- ➡ 外国人居住者の視点から見た観光に関する不満は、「観光情報の不足」と「公共交通の不便さ」が大きな割合を占めている。

また、二次交通については、利用者の視点に立った分かりやすさの向上が求められており、来訪や周遊を十分に後押しできていない要因の一つとなっている。

④ 甲府市の観光資源に対する認知と評価

➡ 「舞鶴城公園（甲府城）」「武田神社」などの歴史的資源や、「御嶽昇仙峡」などの自然資源については、訪問・評価される傾向にあり、甲府市を代表する観光資源として一定の認知を得ている。

また、「甲州夢小路」や「小江戸甲府花小路・こうふ亀屋座」といった中心市街地のエリアについても、訪問先として一定の認知がみられ、まち歩きや滞在中の立ち寄り先として利用されていることがうかがえる。

（４）. まとめ

本調査から、甲府市は、来訪した際の観光満足度が非常に高く、自然、歴史、食といった資源が、インバウンドにとって魅力ある観光資源として評価されていることが確認された。

一方で、来訪前の情報提供や、来訪時の移動の分かりやすさについては、来訪や周遊を十分に後押しできていない状況がみられ、「何があるかわからない」「行きづらい」と感じられていることが、来訪行動につながりにくい要因となっている。

今後は、旅行前の情報提供の充実に加え、観光資源相互のつながりや回遊性の向上を図ることで、滞在時間の延伸、周遊の拡大、観光消費額の増加につなげていくことが期待される。

4. 事業者アンケートの結果概要

(1). 調査目的

甲府市の観光に関わる事業者の現状と課題を把握し、今後の観光施策検討の基礎資料とすることを目的として実施した。

(2). 調査概要

- ・実施期間：2025 年 11 月
- ・対象：甲府市内の観光関連事業者（25 社）
- ・手法：市内の観光関連団体及び事業者に対してメールを送信し、Web もしくはデータで回収を行った。

(3). 調査結果概要

① 組織について

現況

回答事業者：有限会社・株式会社が約 7 割を占めている。業種としては旅行（40%）を中心に、宿泊業、小売業、飲食業など、観光関連の主要な事業者から幅広く回答を得た。

事業継続年数：「30～49 年」が最も多く、地域に根差した老舗事業者が多い。

顧客層：「国内観光客（80%）」が中心であるが、インバウンド観光客を受け入れている事業者も半数を超えており、一定の国際対応が進んでいる状況がうかがえる。

課題

- ➡ 事業者が抱える課題としては、「集客力の強化」「情報発信」「人材不足」が上位を占めており、各事業者の取組だけでは解決が難しい課題が明らかとなった。

② 甲府市の観光について

観光資源

- ➡ 甲府市の強みとしては、「食・ワイン」「自然景観」「温泉」「歴史・文化」が高く評価されている。自由記述などの結果からも、「昇仙峡」「武田神社」「甲府城」「銚子塚古墳」「ワイン」「ジュエリー産業」といった資源が、明確な核として認識されている。

一方で、これらの資源は個別には高く評価されているものの、回遊性や体験としてのつながりが弱く、「点在」して捉えられている傾向がみられる。

誘客について

- ➡ 来てほしい観光客としては、「市内で積極的に消費してくれる人」「リピーターとして何度も訪れる人」が重視されており、単なる来訪者数の増加よりも、消費額や滞在価値を重視する姿勢が明らかとなった。

観光客の増加に対しては、地域経済の活性化やブランド力向上への期待が大きい一方で、「マナー違反」「交通混雑」「生活環境への影響」といった懸念も示されており、観光振興と生活環境の調和が今後の課題である。

③ 観光行政について

観光行政に対する満足度

- ➡ 観光行政全体への満足度は「どちらともいえない」が最も多く、一定の取組は評価されているものの、十分な成果実感には至っていない状況が読み取れる。

次期（第4次）計画に盛り込むべきテーマ

- ➡ 次期計画に盛り込むべきテーマとしては、「観光資源の磨き上げ」「交通・アクセスの改善（特に二次交通）」「イベント・体験型観光の充実」「ナイトタイム・滞在型観光」が上位に挙げられている。

新たな資源の創出よりも、既存資源をいかに活かすかに重きが置かれている点が特徴的である。

また、第3次観光振興基本計画については、「知らなかった」「存在は知っているが読んでいない」が過半を占めており、計画と現場の事業者との距離があることがうかがえる。

④ 現行（第3次）計画の施策評価について

➡ 各施策の評価を見ると、共通して施策の「重要度」の認識は高い一方で、達成状況に対する満足度は「普通」から「やや不満」に集中している。

特に、「二次交通の利用促進」「昇仙峡の周遊観光」「情報発信（多言語対応を含む）」「インバウンド推進」といった分野では、「重要であるが成果が見えにくい」との傾向がみられる。

⑤ 組織間の連携について

➡ 仕入れ先や取引先は「県内・国内他地域」が中心であり、地域内取引の余地は大きい。今後の地域内連携については、約6割が前向きな意向を示している。

一方で、課題としては、「需要量の不足」「価格」「安定供給」が挙げられており、単なる地産地消にとどまらず、供給体制やマッチングの仕組みづくりが必要である。

また、求められる支援としては、「地域内企業のマッチング」「補助金・助成金制度」「物流の共同化」が挙げられており、中間支援機能の重要性が明らかとなった。

（４）.まとめ

仕入れ先や取引先は「市内を除く山梨県内の地域」と「山梨県を除く国内の地域」が中心であり、地域内取引の余地は大きい。今後の地域内連携については、約6割が前向きな意向を示している。

一方で、課題としては、「需要量の不足」「価格」「安定供給」が挙げられており、単なる地産地消にとどまらず、供給体制やマッチングの仕組みづくりが必要である。

また、求められる支援としては、「地域内企業のマッチング」「補助金・助成金制度」「物流の共同化」が挙げられており、中間支援機能の重要性が明らかとなった。